

(表面より観く)

の能くする處ではない。刷新派は、善い事は少しも請はず。四年有餘の間、本會の爲めに盡瘁せる其の功績も稱へず。單に其の非のみを擧げて、或る目的爲めに之を排斥せんことを欲する。其の心事の醜陋、卑劣なる實に唾棄すべきではないか。成程人として欠點のない者はない。然し學校の教員でもない、又坊主でもない、勞働團體の會長が酒を飲んで不可遊里に這入つては不可。それ程身を慎まねばならぬ。理屈が何處に有るか。時には淺酌低吟も可い。遊里に趣いて英氣を養ふも可い。ではなにか餘計な人のお節介を焼かるとが果して、斯く云ふ人達に此事無きか。現に刷新派の頭目廣永、吉田、川村、瀬村の諸君が八木君を擔いで度々酒色の巷に出入したではないか。甚しいのになる。金まで無心して費ふた者もある。誰知るまい。と思ふ。だが、らうが。吾等の手元には已に、々々、刷新派諸君の私行上の事や、今回事件の裏面の消息が分明に調査されてあるのだ。何々々。

中央委員會の經過 十一月五日、中央委員會は開かれた。是れより先き、今井博士や友誼團體の各幹部も調停に頗る勉められたのは實に感謝する所であるが、奈何せん刷新派が其の非を改めざる限り、決裂は到底免れない。元より刷新派は正義の議論に、又向ふ事は出来ぬから、死力を盡して、決議を有する中央委員を因縁をたごりて、一味ごなし、數に於て勝を制せんご目論見た。(此間資格問題につき豊國、阿部兩君の醜

一言半句も發する者もない。斯くては端しがないから遂に採決の結果遺憾ながら多數横暴の爲めに敗れたのである。茲に於て吾等は豫定の節書通り分裂を宣言した。次で名古屋聯合會の西浦君も立つて曰く、「刷新派の云ふ所に據れば八木君が依然として會長たらば會員は漸次減少する。若し同君去らば會員は増加するから是非共自分等に與つて呉れこの事へ其の相談に與りしに、只今大多數の會員は分離し事實は全く之と相反するから我名古屋も爰に獨立する。此時彼等は突然自失。吾等の袖を握つて泣くが如く、訴ふるが如く、再考を促す。奴輩今となりて何んするものを決然然席を離つて吾等同志は引揚げたのである。諸君如何です。彼等が日夜練りに練つて反間苦肉の策を弄した大團圓は此くの通りです。

獅子身中の虫 吾等は刷新派が以上の如く一顧の價值なき排斥理由を繕として陰謀を企む事を洞察したから分離したのである。即ち之が分裂の動機であり、従つて八木君擁護に至る道理である。而るに刷新派は吾等を目して八木君が葬られるご自分達も葬られるご云ふ同類意識から會長排斥に極力反對した。言觸らして居る何處を押したらそんな音が出るのか。吾等はかの秘密計劃を聞くご同時に大阪聯合會長ご支部長ごの職を辭したのだから、支部長辭任は支部會員の答へ、所ごならず爲めに最後迄戦ふたのだ。醜は美を嫉み、僞は眞を嫌ふ。改等りの中、死るや、死る。知

之を補佐する副會長は、じめ、主事等も當然其の責任を分つべきである。何んぞ八木君一人を毒殺して自己等が晏如たるを得んや。而るに他を責めて已を責めず、誹謗權謀少數黨をなし、此の忌しき大渦亂を捲起し世間をして向上會の鼎の輕重を問はしめ、竟に決裂の羽目に導いたのである。之れ獅子身中の虫に非ざるか。吾等は刷新派の諸君が、曩日の友なるが故に、爰に苦言を呈する。速に其の職を退き、罪を會員諸君及び天下に謝せよ。

純向上會の創立 諸君は以上述べました事に依り、其の真相は諒解されたてせう。そして直に是非曲直は判断出來たてせう。云ふ迄もなく今日の勞働者は一日も組合なくては行かれません。ですから吾等は分離した各支部員を初め、吾等ご志を同じうする人士ごを打つて一團ごなして此處に純向上會なる新團體を組織しつゝあるのです。其の成立の日も曩日の内にあるのです。我會は從來の如く普選を標榜して進みます。彼等の如く或は半可通の外來思想にかぶられたり、或は固陋なる舊思想に囚れられ、尤も善實穩健に何事も實力を以て終始し、會員相倚り相扶け會の發達を計り以て向上會の純の純なるものを形作り、居るのである。諸君は此際奮つて我會に投ぜられんことを希望するのであります。

大正十一年十一月
東區谷町一丁目三一
純向上會創立委員